

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（薬科学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育内容・教育方法・教育評価の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>本学科では、高度な薬学的知識と科学的思考力を身につけ、教養科目・語学教育科目・基礎科学科目に続いて、健康科学と生命科学、薬科学の専門的な知識・技能を習得するために、卒業後の多様な職種への進路を見据えた基盤となる履修モデルコースを提供し、これに準拠した科目編成を、次のように実施します。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	豊かな教養と医薬品の製造や開発、人の健康や疾病予防もしくは福祉などに関する深い専門的知識を習得している。	<p>1) おもに1～2年次は、初年次教育を重視し、教養教育科目・基礎的科学的知識と語学能力および薬科学の基礎を学び、卒業後の進路への志向と学修意欲の向上を図ります。</p> <p>2) おもに2～3年次は、モデルコースに準拠した専門科目を学習することにより、薬科学について高度な専門的知識を修得し、研究テーマを選択するための基盤を養います。</p> <p>3) 3～4年次は、講義科目に加えて、研究室での研究を通して、選択した専門分野の研究者・技術者に求められる技能を学習し、研究における展開力を養います。</p> <p>4) 教育課程全般を通じて外国語を学習することにより、外国語によるコミュニケーションならびにプレゼンテーションを円滑に進めるための基盤を養います。</p> <p>教育課程全般を通じて、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を活用し、学生の理解を深めます。</p> <p>また、教育課程の評価については、卒業年次に提出する卒業研究論文をもって、教育課程に通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>1) 十分な基礎学力を有するとともに、自然科学に興味を持っており、自ら学ぼうとする強い意欲、地道に努力する勤勉さがある。入学前には、学修の基礎となる化学、生物、国語、外国語、数学の基礎的な知識を幅広く身につけていることが求められます。</p> <p>2) 科学的な思考力・問題解決能力や真実に基づく考察の重要性を理解できる。</p> <p>3) 薬学研究に取り組み、研究成果を通して、人類の健康と福祉に貢献したいという強い意志がある。もしくは、中学・高等学校の理科教員として、後継者育成活動に寄与したいという強い意志がある。</p>
	1-2	薬学的知識・技術を用いた研究を実施するうえで法令遵守の必要性を理解している。		
	1-3	研究者・技術者としての使命感と倫理観を備えている。		
2. 技能・表現	2-1	研究者として、実験計画の立案、機器や試薬の使用・管理、データ収集・管理と解析、調査など、研究活動に必要な能力を備えている。		
	2-2	様々な発表会や学会などにおいて、研究成果の発表に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を備えている。		
	2-3	医薬品合成、成分分析、薬理・生理活性評価、薬物治療もしくはヘルスケアなどへの応用において必要な基礎的技術を習得している。		
3. 思考・判断／ 態度・志向性	3-1	進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を備えている。		
	3-2	難病・環境・医療・医薬品や化粧品などに関する社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度に基づいて活動できる。		
	3-3	次世代を担う薬学研究者の候補となりうる人材を育成する意欲と態度に基づいて活動できる。		